

東北の弁理士の雑感

齋藤昭彦

私は、弁理士になった当初、東京の特許事務所で働いていました。東日本大震災の翌年、妻の実家がある秋田市に移住し、事務所を開業しました。移住した頃は、本会の委員会活動で年に何度か東京へ行く機会があったのですが、次第に回数が減っていき、コロナ禍ではゼロに…。「このまま東京とのつながりが薄れていくのかな」と寂しい気持ちを抱いていました。ところが、最近になって弁理士クラブの先生とお会いする機会が増えました。

まず、加藤幹事長と政策委員長の今堀先生が秋田に遊びに来てくれました。盛岡の野崎先生にもお声がけして4人で飲みに行き、「新政」の日本酒で乾杯しました。翌日は車で「乳頭温泉郷」に行きました。



また、今年度は権正副会長が東北会を担当してくださり、「正副会長と語る会」で直接お会いすることができました。あまりお話ができなかったので、「つながる特許庁」で再会できることを楽しみにしています。

さらに、普段からお仕事をご一緒している弁クの先生方と東京で飲みに行くことができました。秋田は人口減少が進んでいて、県内の仕事だけでは将来が心配です。東京の先生と一緒に仕事ができることは、本当に心強いです。

弁クに入会する時はあまり深く考えず、弁理士の知り合いが増えたらいいなという程度の気持ちでしたが、本当に入って良かったです。これからも弁クの先生方とのつながりを深めていけたら幸いです。

今一番の悩みは、知財業務におけるA Iツールの活用です。地方の個人事務所では、他の弁理士がどのようにA Iツールを活用しているのかを知ることができません。加藤幹事長にお会いしたときも、「A Iツールの活用を学べるオンラ

イン勉強会をやって欲しい」とお願いしました。もしかすると、会派の活動は、地方の弁理士こそ必要なのかもしれません。